

公益社団法人群馬県医師会

1
vol.

保育サポーターバンク通信



「保育サポーターバンク通信」

発刊に寄せて

群馬県医師会 会長 月岡 関夫

昨今、女性の社会進出は急速に進み、同時に女性も持っている柔軟な発想力や潜在的な力は高く評価されつつあります。女性は社会の宝であり、貴重な財産です。

しかし、社会環境が十分に整っていない中、女性が自分の能力を十分に発揮し継続して働くことは、容易なことではありません。特に、ハードルの高いライフセンスを持つ女性医師は、高い使命感を持って日夜を問わず命を守る仕事ですので、至難の技です。

そこで群馬県医師会では、女性医師を支援するため、2年前に保育サポーターバンクを設置しました。現在、本制度に登録している医師は71名、サポーターが91名と、好調に増加しております。今後、益々需要が見込まれ、頼りになる制度として県内外からも注目されております。

女性医師の仕事は予定を立て、計画的に進めることは難しく、お迎えの時間に合わないことも度々生じます。困った時に対応できる選択肢が多いと大変心強く、安心感を持って仕事に臨めます。こうした声を聞く場面が増えました。

県医師会では、もっと多くの女性医師から、「良かった」という声を聞くために、本制度の一層の充実と、ご期待に応えられる事業の展開を、スタッフ一同進めて参ります。

医師の離職防止に期待して

群馬県健康福祉部 医務課
医師確保対策室長

歌代 昌文

全国的な医師不足の中、本県においても地域医療を支える医師の確保は県政の最重要課題であり、特に、女性医師の就労継続を支援する取り組みは、喫緊の課題と考えています。

そのような中、群馬県医師会が実施する保育サポーターバンクは、女性医師の子育てを支援し、働きやすい環境を整えることで、就労の継続や医師確保に寄与しており、運営に携わる皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

この、保育サポーターバンクは、全国的にも先進事例であるため、事業の立ち上げには関係の皆様のご苦労があったと思いますが、全国の自治体から注目され、様々な報道機関からも取材の申し込みが殺到するなど、群馬県から発信する素晴らしい事業に育っています。

今後、保育サポーターの充実を図り、より多くの医療機関において、より多くの医師の離職防止に寄与して頂くことを期待しております。

医師の皆様におかれましては、この制度をご活用いただき、医療の現場で安心して活躍いただければ幸いです。

第1回保育サポーター研修会
(平成24年5月13日)保育サポーター
募集中

県医師会では、引き続き保育サポーターを募集しています。みなさまのお知り合いにお声かけを是非よろしくお願ひします。詳細はお問い合わせください。

保育サポーターバンクとは

子育て医師が仕事と家庭を両立するための支援です。支援内容(保育、送迎、病児・病後児保育、家事)は、医師とサポーターが話し合って決めます。

サポーターさんからの声



毎日保育園から帰ってきて大体一時間半くらい保育をし、病児保育、先生が休日に日直の時などにお手伝いしています。

初めて会ったときには、はいはいもまだだった赤ちゃんがあつという間に歩けるようになりました。最近では、保育園から帰ってきてから寒さも気にせず庭で声をあげて走り回ったりして遊んでいます。昨日は登れなかった段差を次の日には登れるようになっていて、日々の成長に毎日驚かされています。言葉の表現も目を追うごとに増えていきます。ものを指さし「あつた!」と言ったり、元氣よくお返事をしています。毎日お子さんの笑顔を見るのを楽しみに通っております。

子育てをしながら働くことは大変だと思います。特に先生の仕事は急患が入ることもあつて、帰りが遅くなることもあります。お母さんの帰りを待っているお子さんの心に、少しでもそえるようになりたいと思います。

高崎市(M・Sさん)

塾の送迎のサポートをしています。うちの子どもたちは成人しているのですが、小学生のお子さんと接するのは楽しみな時間です。ちょっとした会話に驚かされることもあり、将来を思い描き、成長を楽しみに見守っています。

でもその一方で、大切なお子さんを預かる責任を感じています。時間にすれば週一回の20分程度のサポートですが、車での移動なので特に「安全」には気を使います。また、「忘れずに必ず行く」ために、常に心に留めて置かなければなりません。当日は夕食の仕度をしていると時間の感覚が飛んだりするので、アラームをかけて気をつけています。そろそろ一年になります。思えば、見ず知らずの私に大事なお子さんを託すのだから、両親はさぞ不安だったことでしょう。その考えを、ご両親の信頼に込めるためにも、頑張ってお手伝いしたいと思っています。

前橋市(H・Sさん)

週に2回、先生のご自宅で幼稚園に通っている妹さんの面倒を見たり、小学生のお姉さんの学童のお迎えをしています。

最初の頃は子どもさんが私に慣れられるまで時間がかかりましたが、今ではご家族とも信頼関係が築けてきたような気がします。

子育てが一段落した私にとって、子どもさんたちのかかわりがとても楽しくやりがいのある仕事となっております。

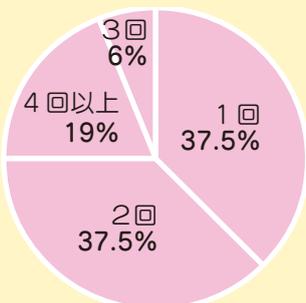
少しでもお母様が安心して仕事に専念できるよう、これからも誠意をもって子どもさんたちを見守るお手伝いができたら、と思っております。

甘楽町(N・Oさん)

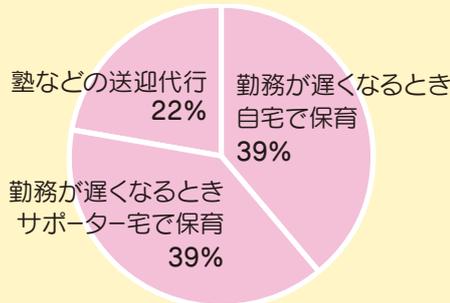


利用者アンケート結果

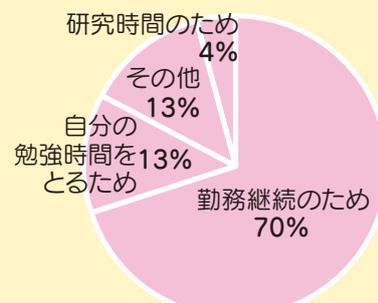
週何回くらいの利用ですか？



どのようなことに利用していますか？



主な利用理由はなんですか？



女性医師の声



明日入院するかもしれない！そんな切羽つまった状況からお世話になることになりました。

開業2年目を目前に3人目を妊娠中、切迫早産でした。3人目ということもあり、お腹の張りも少々無視、このくらいは大丈夫と、仕事、家事、育児に追われていました。間もなく一番上の子は小学校入学、二番目は年少に進級という頃でした。助っ人のいない我が家にとって一大事。どうしよう…？ ふと、思い出した医師会からのFAX。明日からという急な事態にも関わらず、迅速な対応をして下さいました。産後約半年、赤ちゃんの世話や家事支援もして頂きながら仕事復帰ができました。今お二人のサポーターさんにお世話になっていますが、大変親切にして頂きお陰様で一歳を迎え保育園に通うまでになりました。感謝！

沼田市(K・Tさん)

近くに頼れる親族がいいため、私の仕事(研究会・学会)と夫の仕事が重なった際、みてもらえて助かっています。

前橋市(K・Sさん)

サポーター制度があるので何とか仕事をつづけられています。ありがたい限りです。外来が主な分、夜遅くはなりません、病児でも休めません。なので病児保育も大変助かっていますし、お迎えもお願いしてあるので、安心して働けます。ありがとうございます。

高崎市(A・Oさん)

急なお願いでも100%対応して頂けたので非常に助かりました。娘もサポーターさんやサポーターさんのご主人・お孫さんになついでいて、お孫さんの誕生会の日も偶然あずかって頂いたのですが、わけへだてなく一緒にケーキをたべさせてもらったりしてとても楽しかったようです。こまめに携帯で写真メールしてもらえたのも様子が分かって安心しました。

前橋市(K・Yさん)

急なお願いにも必ず対応して下さいる安心感は何にも増してありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。とても満足しております。

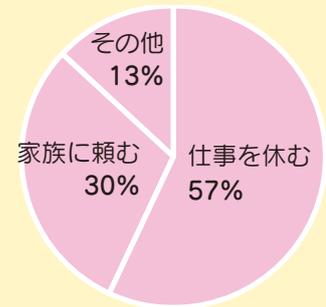
前橋市(Y・Eさん)

3つ子を出産して、丁度、1年が経ちました。自宅で主人の母にも協力してもらいながらも、どうにも手が足らず、子どもたちは泣くばかり。こちらも泣きたい気持ちをこらえて3か月たった頃、2人のサポーターさんを紹介して頂きました。現在も連日、保育園に登園するまでと保育園から帰宅後の食事や入浴の介助、寝かしつけ、外来受診の同行、時には長男(小学生)の相談相手?などです。どちらの方も子どもが大好きで、自分の子ども、孫のようにかわいがってくださり、それが何より安心してお任せできる点でもあります。お陰様で、生後7か月から職場復帰ができました。まだまだ育児に手がかかりますが、元気に保育園生活を送っている子どもたちに感謝、それを支えてくれる家族、サポーターさんに感謝です。

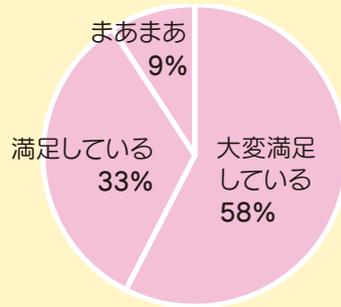
前橋市(R・Hさん)



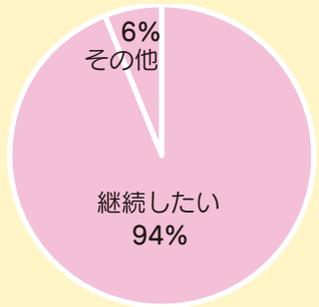
病児の時、保育サポーターバンク制度がなかったら保育はどうされますか？



保育サポーターバンク制度自体に満足されていますか？



今後、継続して利用したいですか？





子育て支援
相談室

次世代を担う 子ども達への眼差し

子育て医師保育支援 相談員 松山 治子



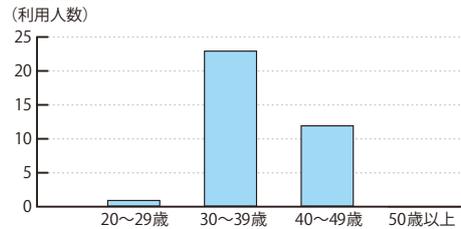
女性の継続就業や活躍促進に向けた環境整備の重要性が語られて久しい。実際、家庭と仕事の両立を図るためには、女性側が、かなり頑張らなくてはならないと成り立たない現状が様々なデータからもみえてくる。日常、育児に関して、保育施設からの急な呼び出し等にはママが急場をしのぐことが多いだろう。「大変ね」という声を聞きながら、ごく自然にママのやるべきこととして頑張る。そのうえに医療人としての責任を抱えている。こうした状況を理解し、何とか力になりたいと「バンク」に登録されたサポーターさん

と子育て医師との縁結びを始めて2年が経過した。ありがたいことに、多くのお力を寄せて頂いている。そして、活動を担っているサポーターさんの眼差しには、次世代を担う子ども達への慈しみと命への思いがあり、安全第一に、自負を持って取り組んでいることを誇りに感じる。さて、バンクは「女性医師の子育て支援事業」として、不足する医療人材確保のため、県補助金を受け、取り組んで来たが、更に二年間「子育て医師保育支援事業」として男性医師を加えスタートできたことは嬉しい。手さぐりで始めたバンクであるが、利用したいバンクとなるよう、皆で心を合わせ、笑顔のサポートに励んでゆきたい。揺るぎない制度として、持続できることを願いつつ、感謝を込めて！

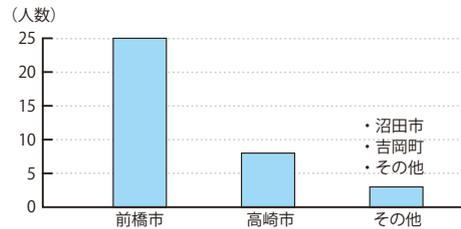
DATE

利用者アンケート結果より
(平成25年12月実施)

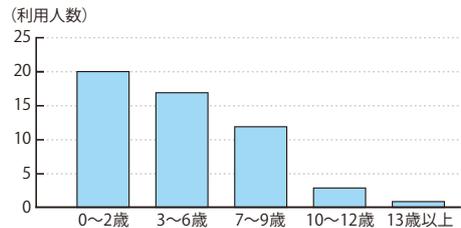
◆利用医師の年齢



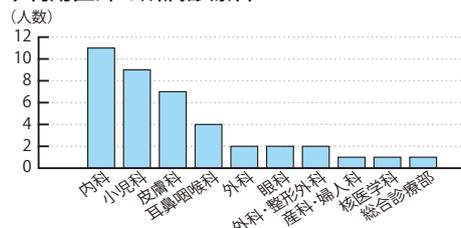
◆利用医師の住所地



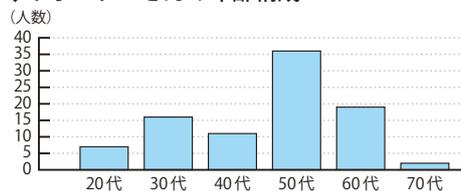
◆利用している子どもさんの年齢



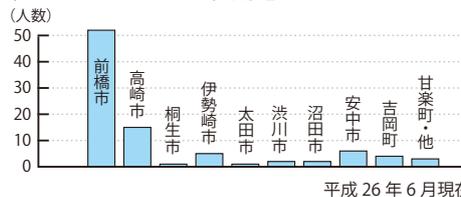
◆利用医師の所属診療科



◆サポーターさんの年齢構成



◆サポーターさんの住所地



平成26年6月現在

乳幼児突然死症候群 から

医学まめ知識

赤ちゃんを守りましょう

群馬県医師会理事 今泉友一

●どんな病気

乳幼児突然死症候群、英語で Sudden Infant Death Syndrome (SIDS) は、元気に育っていた赤ちゃんが、ある日突然、眠っている間に亡くなってしまふ病気です。事故や窒息が原因ではありません。

●原因

赤ちゃんは眠っている間に呼吸機能が低下し、呼吸が止まることがあります。これがこの病気と何らかの関係があるようですが、原因はまだよくわかっていません。

●頻度

日本では、およそ6000~7000人に1人の赤ちゃんがこの病気と亡くなっていると推定されています。

●かかりやすい年齢

かわいい盛りの子生後2か月から6か月に多く、まれに1歳以上でも起こることがあります。

●予防するには

次の3つを守ることで、発症の可能性を小さくできます。

- ①うつぶせ寝は避ける
- ②たばこは吸わない
- ③できるだけ母乳で育てる

【お問い合わせ先】

群馬県医師会 子育て医師保育支援相談員
〒371-0022 群馬県前橋市千代田町1-7-4
TEL.027-231-5311 FAX.027-231-7667
E-mail : hoiku@mail.gunma.med.or.jp